

行政の窓

「WOODコレクション (モクコレ) 2018」で 北海道産木材・木製品をPR

道では、利用期を迎えた道内の森林資源の循環利用を推進するため、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として、道内外での道産木材・木製品の利用拡大を図ることとしており、平成30年1月30日（火）から31日（水）にかけて開催された、日本各地の木材を活用した製品展示会「WOODコレクション (モクコレ) 2018」（東京都）において、道産木材製品を製造・販売する22の企業・団体とともに北海道ブースを出展しました。

【モクコレ2018の概要と北海道ブースの出展内容】

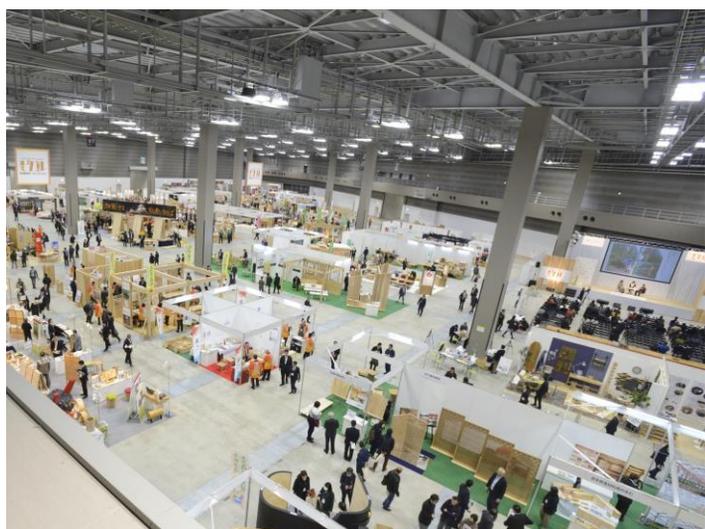
「モクコレ」は、東京都が日本各地と連携して取り組む産業振興施策「ALL JAPAN & TOKYOプロジェクト」のひとつであり、主に木材の一大消費地である首都圏等で日本各地の地域材の利用促進を目的に開催されているものです。

今年度は3回目の開催となり、東京国際展示場（東京ビッグサイト）を会場として、33都道府県から324者の木材関係業者・団体が参加する過去最大の開催規模となりました。



北海道ブースの様子

北海道ブースでは、乾燥技術により、狂いや内部割れを克服したカラマツ無垢構造材、準不燃・難燃処理が施された道南スギ壁材や斬新なデザインが高く評価されている床材などの内外装材のほか、国内外で高く評価されている北海道の家具、木雑貨や楽器、トドマツ精油を使った空気浄化剤に至るまで、道産木材を活用して製作されたさまざまなジャンルの木製品を展示し、また「北海道産木製品リスト」の配布も行うことで、道外の建築関係業者や商社・流通業者等に対し、道産木製品の魅力をPRしました。



モクコレ会場の様子(東京都より提供)

【おわりに】

道では、今後も道産木製品の販路拡大を図るため、木材需要の増加が期待される首都圏等のほか、成長の著しいアジア諸国など道外・海外に向け、各種展示イベントへの出展や海外輸出などの普及PRに取り組んでいきます。

【出展を終えて】

2日間の来場者数は約4,000人となり、昨年の約1,300人を上回る盛況ぶりでした。

北海道ブースの出店者からも「今後の仕事につながる商談を行えた」、「会場内での物販が想定以上に好評だった」といった声が多く聞かれ、首都圏等における道産木材の知名度向上や需要拡大につながることを期待されます。

東京都では更なる利用促進のため、来年の1月29日・30日に「モクコレ2019」の開催を決めており、道としても引き続き、道産木材・木製品の普及PRの一環として北海道ブースを出展する予定です。

(北海道水産林務部林務局 林業木材課 利用推進グループ)